

富士通パソコン Telework Plus+

テレワーク プラス

さまざまな分野で見直しが進む「ニューノーマル時代」において、オフィス環境も様変わりしている。テレワークが広く普及する中で、これまでとは異なる働き方で、従来以上に成果を出すことが求められているのもその1つだ。オフィスや自宅、あるいはサテライト/シェアオフィスなどで「いつでもどこでも」快適に業務をこなすのに欠かせない最新のPCと、それにプラスしてワンランク上の環境を手に入れる方法をお届けする。



快適な**テレワーク**の要となる 最新お勧めPCのポイント

Go To キャンペーンやハンコの廃止といった流れを挙げるまでもなく、デジタル化やオンライン化の波が身近に迫っている。このような時代に適応するには、何よりPCが必要だ。もちろん、スマートフォンやタブレットが活躍する場面もあるだろうが、企業システムへのログインや、腰を据えた資料作成、写真や動画ファイルの整理などを、高速かつスムーズにこなすためには、やはり大きなディスプレイとキーボードを備えるPCが使いやすく最適である。

ただし、一口に「PC」と言っても、さまざまなタイプが存在する。いざ購入するとすると、あまりの選択肢の多さに悩むことも事実だ。最近ではPCが備えるCPUの処理スピードが格段に向上し、メモリやストレージの容量も以前に比べて倍増している。どんなモデルを選択しても、基本的な作業でつまづくことはないだろう。しかし、だからこそ、より快適に扱うためには、使い勝手の良さや、柔軟なスタイルで運用ができるかどうかなど、利用想定環境との相性を見極めることが重要だ。

特に、企業やサテライトオフィス、自宅など、場所を選ばずに業務を行うテレワークの観点で言えば、軽くて持ち運びやすいノートPCが重宝する。もちろん、オフィスではPCを使い、外回りではタブレットやスマートフォンを使うという対応も可能だろうが、システム連携やデータ関係の使い勝手を考えれば、ノートPC1台にまとめた方が効率的だ。

こういった携帯性の良さは、富士通のモバイルPC「LIFEBOOK U」

シリーズが得意とするところである。そもそもノートPCは1kgでも軽量とされるどころ、本シリーズでは約777g~という超軽量のボディを実現。さらに、インテル® 第10世代Core™ プロセッサによる高いパフォーマンスも備えており、性能面での安心感もある。

ボディのデザインも余分な出っ張りがなくスマートだ。例えば「U9310/E」の場合、最薄部で約15.5mmの形状はカバンやバッグへの収まりもよい。また、指でのタッチ操作やスタイラスペンでの操作にも対応した「LIFEBOOK U9310X/E」や、とにかく軽量で頑丈な「LIFEBOOK U9310/E」など、業務内容や用途に応じた選択肢が用意されている。本シリーズに共通する頑丈なボディは、携行時の衝撃や圧力によるダメージも防げる。バッテリー駆動時間は、モデルによってわずかに異なるものの、基本的に標準で約11時間、大容量バッテリーならば約23時間と、ほぼ1日の業務をACアダプター不要でこなせる点は魅力だ。

スタンダードモデルである「LIFEBOOK U7」シリーズなら、画面サイズが13.3型/14型/15.6型から、画面解像度が1920×1080ピクセル/1366×768ピクセルから選択できる。

なお、ノートPCでは、キー入力やタッチパッドの操作性も重要だ。富士通のLIFEBOOKシリーズでは、キーピッチが約18.4~19mm、キーストロークが約1.5~1.7mm、とデスクトップPC用のキーボードと遜色ないサイズを実現しており、入力もスムーズにこなせる。

圧倒的な軽さでビジネスが加速

LIFEBOOK U9310/E



インテル® Core™ i5 vPro®
プロセッサ

「LIFEBOOK U9310/E」は、13.3型の液晶ディスプレイを搭載しながら、重量は約777g~で抜群の軽さを誇る。ボディの厚さも約15.5mmでスリムだ

テンキー付きで移動もスムーズ

LIFEBOOK U7シリーズ



インテル® Core™ i5 vPro®
プロセッサ

「LIFEBOOK U7510/D、U7410/D、U7310/D」は、テンキーを備えたスタンダードモデル。3種類の画面サイズから選択可能だ。Webカメラには物理シャッターも用意する

セキュリティ面の対策も万全 安心して使える理由

ノートPCを携帯する上で、万が一のPCの紛失によるデータ漏えいなどセキュリティは大いに気になるところだ。このLIFEBOOK Uシリーズでは、手のひら静脈センサーやタッチ式指紋センサーなどを選び、マスクをつけたままでも手軽に素早くログイン認証を行える。用途に応じてスマートカードスロットを追加することも可能だ。

また、Windows Hello対応のWebカメラも内蔵可能(カスタムメイドで選択)で、追加投資不要でWeb会議が行えることはもちろん、顔認証でWindowsへのログインも手軽に行える。

データの暗号化が万全なことも、法人向けPCならではのポイントだ。セキュリティチップ(TPM 2.0)を標準で装備している他、秘密分散ソフトウェアの「Portshutter Premium Attachecase(ポートシャッター・プレミアム・アタッチケース)」や、リモートでデータ消去を行う「CLEARSURE 3G/LTE」にも対応する。機密性の高い情報を扱う部署や、持ち運びが多い部署、あるいは据え置きでの利用が大半など、求められるセキュリティレベルに応じて豊富な選択肢が用意されているのもうれしいポイントだ。

よりパワフルで業務もスムーズに デスクトップPCという選択肢も

一方、ノートPCのコンパクトなディスプレイでは、十分なパフォーマンスが発揮できないという職種、会社や部署の規定でノートPCが利用できないというケースもあるだろう。在宅勤務などが継続的に続き、移動頻度が少なく済むならば、超小型デスク

これは便利!



認証情報としての手のひらの静脈は、顔や指紋と違って体内にあるため、外部へ漏えいする心配がない。遠隔でのデータ消去などと併せ、金融や生保といった業界で導入実績が多い

トップPCという選択肢が有効だ。

富士通の「ESPRIMO G5010/E」は、容積が約0.87Lという非常に小さなボディに、8コア16スレッドのインテル® Core™ i7-10700Tプロセッサを搭載できる。縦置き／横置き両対応で、机上のスペースも節約しやすい。

インタフェースには標準でDisplayPort、HDMI、USB Type-C (DisplayPort Alternate Mode対応)といったディスプレイ出力端子を装備し、DisplayPortからVGA(アナログD-Sub 15ピン)／DVI-D／HDMI端子へ変換するケーブルも追加できる。新旧さまざまなタイプのディスプレイが混在しているオフィスで問題なく接続可能なも見逃せない。

これならば、大画面で帳票を扱っていたり、複数のマクロを組み込んだ膨大なExcelファイルを扱っていたりする経理や総務の人たちでも、在宅ワークがこなしやすいだろう。

ノートPCとしてもタブレットとしても活躍



ノートブックモード



タブレットモード



インテル® Core™ i5 vPro®
プロセッサ

「LIFEBOOK U9310X/E」は、13.3型でタブレットモードに切り替えて利用できる2in1モデルだ。本体にはスタイラスペンを内蔵しており、電子サインなどの手書き操作も行える

高性能な超小型PCで省スペース性も抜群



インテル® Core™ i5 vPro®
プロセッサ

「ESPRIMO G5010/E」は、片手で持てる超小型ボディを実現したデスクトップPCだ。机上の限られたスペースでも無理なく設置できる。最大2画面への同時出力も可能だ

Telework Plus 01

マルチディスプレイで快適な作業環境を実現

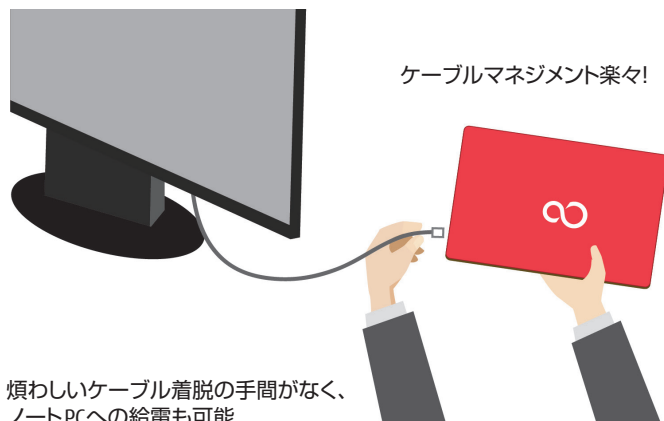
ここからは最新のPCをベースに、ワンランク上の快適なテレワークを実現するために欠かせない「プラスα」のポイントをチェックしていこう。

まず、知っておきたいのは、画面の小さいモバイルPCで通常の業務を“普通”にこなすには、PC回りの環境整備が欠かせないということだ。既に環境が整ったオフィスや、サテライトオフィスで仕事をするのとは異なり、テレワークでは、ちょっとしたデバイスを追加したり、作業しやすいように一手間を加えたりするだけで、快適さが大きく変わる。

そこで真っ先にお勧めしたいのが、作業領域を拡張するマルチディスプレイ環境の構築だ。ノートPCに液晶ディスプレイを接続することで、単純に作業領域が倍増する。また、画面の位置や配置を整えることで、業務に適したスタイルを容易に確立できる。

ノートPCと外付けディスプレイの2つの画面を同時に運用できれば、複数の資料を参照しながら、プレゼンテーション用のスライド作成、写真や画像データの修正作業などを行いやすい。また、テレワークにおいて、片方のディスプレイにWeb会議の映像を表示して視聴しながら、もう片方を使って議事録の作成もスムーズにこなせる。Windows 10では、画面ごとに文字のサイズを変更できるので、環境に応じて見やすさを柔軟に整えられる点も安心だ。

LIFEBOOKシリーズでは、マルチディスプレイ環境を簡単に構築できる。USB Type-C接続をサポートした富士通の27型ワイド液晶



煩わしいケーブル着脱の手間がなく、ノートPCへの給電も可能

ディスプレイ (VL-P27-9T) を使う場合、1本のケーブルを接続するだけで映像 (DisplayPort Alternate Mode) / 音声 / 有線LAN / 給電 (USB Power Delivery) / マウスやキーボードなどをまとめて利用可能になる。いわばディスプレイ側に多機能なドッキングステーションが内蔵されている形だ。これにより、PC回りがケーブルで埋もれることもなく、PCを持ち出す際にはケーブルを1本外すだけで済む。

特に最近のビジネスシーンでは、Web会議やウェビナー、リモート営業、オンライン営業などの運用を踏まえ、通信速度や安定性を優先し、無線LANよりも有線LAN接続を選択することが多いだろう。しかし、移動のたびにLANケーブルの抜き差しの手間が発生したら煩わしい。

並べて拡張

3辺スリムベゼル(狭額縁)で並べても見やすい

縦に回転

縦型資料や長いWEBサイトを閲覧するときはローテート

上下に配置

最大147mmまで高さ(ハイト)を調整可能。手前にノートPCを置くこともできます

マルチディスプレイ環境を整えれば、作業用のウィンドウをゆったりと表示でき、切り替えの手間なくビジネス文書を作成できる。特に、富士通製の27型ワイド液晶ディスプレイ (VL-P27-9T) を使えば、画面の位置を変えるだけでなく、向きを縦に回転させることで、一覧性を高めることも自在に行えるのがポイントだ

同社の液晶ディスプレイは有線LANケーブルもつなげられるので、ノートPCに対して直接LANケーブル抜き差しを頻繁に行う必要はなくなる。給電用のケーブルやマウスなどの周辺機器接続についても同様だ。

社内会議で離席する機会が多い人や、営業などのモバイルワーカーには強力な味方となってくれるはずだ。

組織でのPC運用において欠かせない機能として、「MACアドレスパススルー」への対応もかかせない。上述したような環境で運用しても、ディスプレイ側ではなく、企業に登録したノートPCのMACアドレスを使ってネットワーク環境への接続が可能になる。

細かいところでは、USB Type-Cの信号制御により、ディスプレイ側の操作だけで、PCを含めた電源のオン/オフやスリープが行えることもチェックしておきたい。

他にも、会社のセキュリティの都合で、社内システム用PCと外部接続用PCが別々の場合でも、KVM(Keyboard Video Mouse)スイッチを切り替えれば、使い慣れた1組のキーボードとマウスで2台のPCを扱うことができるのだ。地味ながら、仕事の効率アップにつながりやすい機能として覚えておこう。

VESAマウントをプラスすれば ゼロスペースの運用が可能に

総務や経理に代表されるように、細かい数字を見る場合が多い職種では、在宅ワークのノートPCだと画面が狭く作業効率が上がらないとの声も耳にする。そういう場合もマルチディスプレイ環境を構築すれば、これらの課題を解決しやすい。例えば20型以上の大画面ディスプレイを複数接続して、広大なスプレッドシートで作業できれば、さまざまな作業がはかどる。また、クリエイティブ職な



LIFEBOOKシリーズ VLシリーズ 22-27インチ

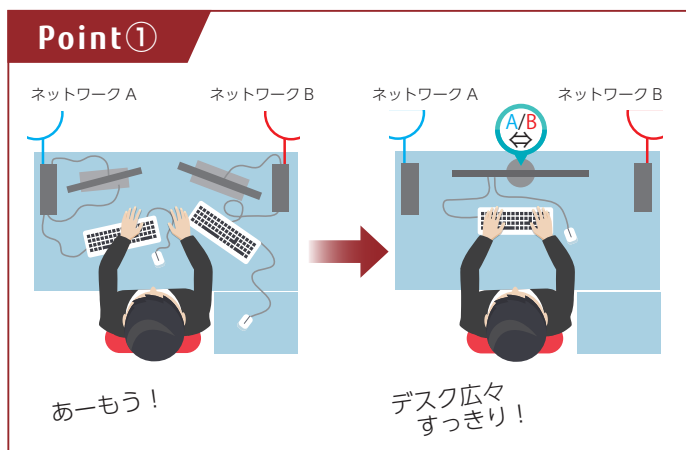
富士通のLIFEBOOKと液晶ディスプレイを利用すれば、USB Type-Cケーブルを着脱するだけで映像/音声/有線LAN/給電/マウスやキーボードをワンタッチで追加できる。スマートな操作で広大な作業領域を確保でき、快適にテレワークをこなせる

らば、静止画や動画編集用に広々としたウィンドウを確保できる。

しかし、自宅などで十分な設置スペースが確保できるとは限らない。そこで活用したいのが「VESAマウント」規格に対応した製品だ。

ねじ穴を使って壁やアームなどに固定できる規格で、富士通のコンパクトなデスクトップPCのESPRIMO G5010/EにもVESAマウントキットのオプションが用意されている。これを追加すれば、液晶ディスプレイの背後にPC本体を設置できるようになる。

設置用のスペースは液晶ディスプレイだけに抑えつつ、オールインワン型の“ゼロスペースPC”として活用できるわけだ。これに同社製の27型ワイド液晶ディスプレイ「VL-P27-9T」を組み合わせれば、ESPRIMOへの電源供給と画像出力をUSB Type-Cのケーブル1本で済ませられる。PCの大画面化だけでなく、机上をスッキリと見せたい場合には、こうした運用方法も検討したい。



セキュリティの関係で外部用PCと社内システム用PCが別々の場合でも、KVMスイッチを切り替えることによって一組のキーボードとマウスで2台のPCを操作できる



デスクトップPCのESPRIMO G5010/Eは、オプションのVESAマウントキットを追加することで液晶ディスプレイの背面に固定ができるようになる

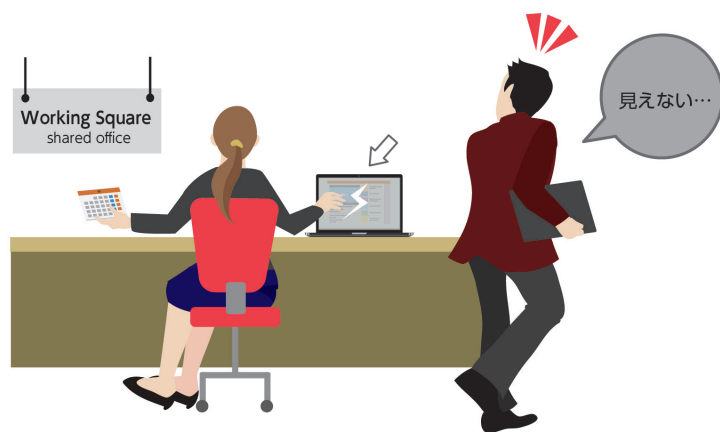
Telework
Plus
02

プライバシーフィルターで さらなる安全性を確保

テレワークを進める上で、セキュリティ対策は重要だ。万が一の紛失や盗難を想定し、ユーザー以外の第三者がPCやサービスにアクセスすることを防がなくてはならない。手のひらの静脈パターンや指紋、顔などを登録し、生体認証を用いたログイン認証を使用しておくのはもちろん、SaaSのようなクラウドサービスを利用する場合は、多要素認証の設定などもあった方が望ましい。多くの企業の情報システム担当者も、こういった対策には目を光らせているだろう。しかし、うっかり忘れてはならないのが、意図しない「ビジュアルハッキング(のぞき見)」への対策である。

ビジュアルハッキングとは、ショルダーハッキングとも呼ばれ、その名の通り画面に映っている情報を盗み見るという古典的な手法だ。マルウェアの感染などと比べて、手段自体が地味に感じられるかもしれないが、機密情報を閲覧しているタイミングでうっかり同業他社の社員が通りかかって画面をのぞいたら、簡単に機密漏えいにつながってしまう。こうした危険性を考えると、侮れない脅威なのだ。

総務省発行の『テレワークセキュリティガイドライン第4版』でも、社外でのPC作業時に「プライバシーフィルター」の使用が推奨されている。プライバシーフィルターとは、PCのディスプレイに貼り付けることで、目視できる画面表示の範囲を制限できるフィルムのことだ。通勤や社外移動中の電車内、不特定多数の人が行き来するシェアオフィスなどで、安全かつ安心して仕事をこなすには、



このような装備が欠かせない。また、企業にとっては、情報管理をしっかり行っているという印象付けにもなる部分だ。

プライバシーフィルターには、フィルムの取り付け方法によって、いくつかの種類が存在する。PCに両面シールでペタッと貼り付けるものや、マグネットで固定するものなどさまざまだ。

富士通のLIFEBOOK U9シリーズ(U9310Xは除く)には、ディスプレイのベゼル部分にあらかじめ溝があり、同社がスリーエム ジャパンとともに開発した専用のプライバシーフィルターを、この溝にはめ込むことで容易に着脱できる。場所を問わず仕事をこなすには、こうした相棒が欠かせない。

PC側に着脱専用のくぼみを設置
専用フィルターだから貼り付けの必要がなく、着脱が簡単



LIFEBOOK U9シリーズ



専用プライバシーフィルター

LIFEBOOK U9シリーズ(U9310Xは除く)には、専用のプライバシーフィルターが用意されている。これを溝にはめ込んで装着することで、のぞき見による情報漏えいを手軽に防げる

Telework
Plus
03

煩雑なケーブルの着脱を ワンタッチで簡単に!

ノートPCを使う上で、意外と困るのがケーブルマネジメントだろう。マウスやテンキー、ヘッドフォンやヘッドセットといった周辺機器、映像やサウンド関連、さらには有線LANのケーブルを使うたびに接続したり取り外したりするのは面倒だ。特に、自宅やシェアオフィスなど、ノートPCを携帯して作業場所を変える頻度が高い場合には、こうした手間が発生しやすい。

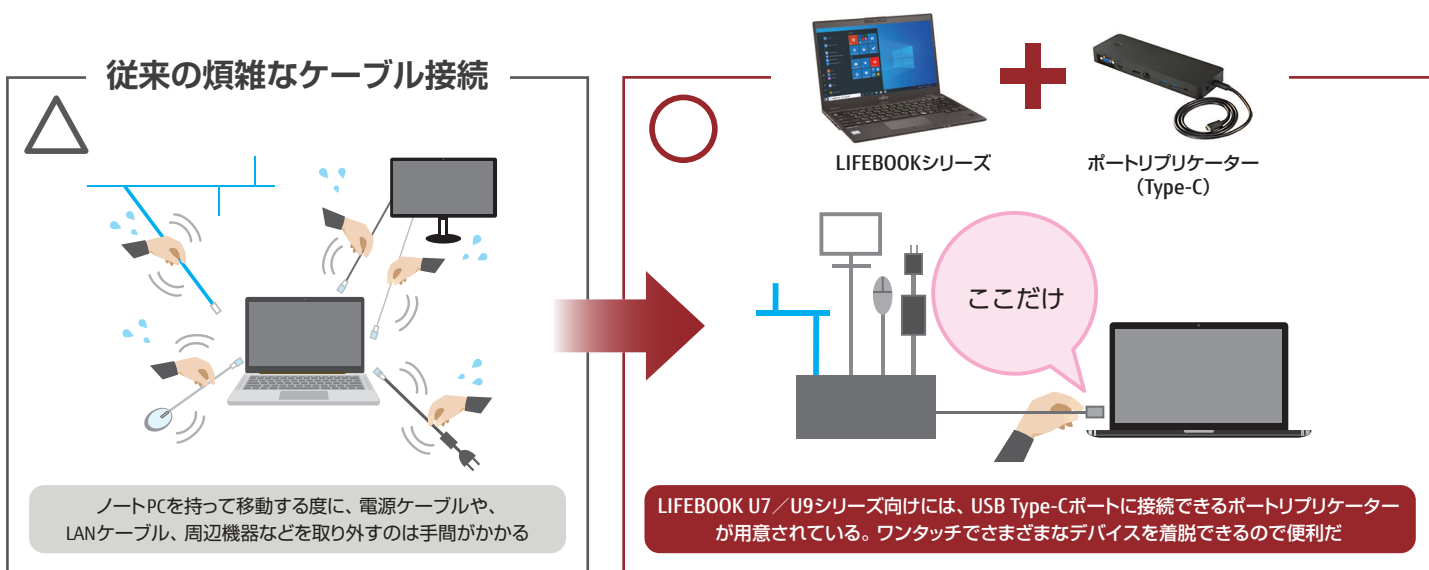
そこで重宝するのが、ワンタッチでケーブルを取り外せるポートリプリケーターだ。USB Type-Cポートを備えているLIFEBOOK U7/U9シリーズならば、USB Type-Cケーブル1本で上記の接続をワンタッチで着脱できる。企業システムにアクセスする際にも欠かせない、有線LANのMACアドレスパススルー機能も完備している。

このような周辺機器を活用することで、ケーブルの取り回しに関する悩みは少なくなるだろう。テレワーク中はもちろん、普段から

会議が多い管理職や外回りが多い営業職などなら、自席から会議室や出先に向かう際もスマートに移動できるようになり、快適な運用につながる。

ケーブルに関連したところでは、ACアダプターも確認したいポイントだ。そもそもLIFEBOOKシリーズのACアダプターは小柄で持ち運びが容易に行え、追加で購入すれば持ち出す必要もなくなるので便利だ。また、オプションで用意されている環境にも配慮した「Eco Sleep対応ゼロワットACアダプター」にも注目したい。

こちらは、ノートPCの電源オフ時に充電が完了した状態になると、ACアダプターからの電力供給を停止させる「ECO Sleep機能」と、ノートPCの電源オフ時にACアダプター自体が消費する待機電力を限りなくゼロに近づける「ゼロワットACアダプター」機能を併せ持っており、自宅ですら消費電力を抑えたい場合に有用だ。



富士通の最新PCとソリューションで 快適なテレワークを実現しよう!

昨今のIT機器やテクノロジーの発達によって、従来はテレワークが難しいとされていた業種や職種でも、決められた場所以外で業務を推進できるようになってきた。これは同時に、「どのような状況下でも一定の成果を出し、生産性を高めることが求められている」ということでもある。

富士通の最新PCに適切な周辺機器をプラスして活用すれば、場所を問わず高い生産性を獲得できる環境は必ず整う。企業や個人の利用スタイルに合わせて、最新のPCに便利なデバイスをうまくプラスすることで、ニューノーマル時代に即した快適なスマートワークを実現してほしい。



優れた使い心地をもたらすパフォーマンス

ビジネスにこたえる Intel vPro®プラットフォーム



インテル® Core™ i5 vPro® プロセッサー

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Intel vPro、Core Inside、vPro Inside は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。

お問い合わせ先

【購入相談窓口】 通話料無料 0120-959-242

(受付時間:9時~18時)※土・日・祝日、年末年始除く

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

Copyright 2020 FUJITSU LIMITED